

ダイダン株式会社北陸支店

“伝統と革新の融合”をテーマとした次世代オフィス

DAI-DAN CO., LTD. HOKURIKU BRANCH
Next-generation office with the theme of "Fusion of Tradition and Innovation"

ダイダン株式会社、株式会社プランテック
DAI-DAN CO., LTD. Plantec, Inc.

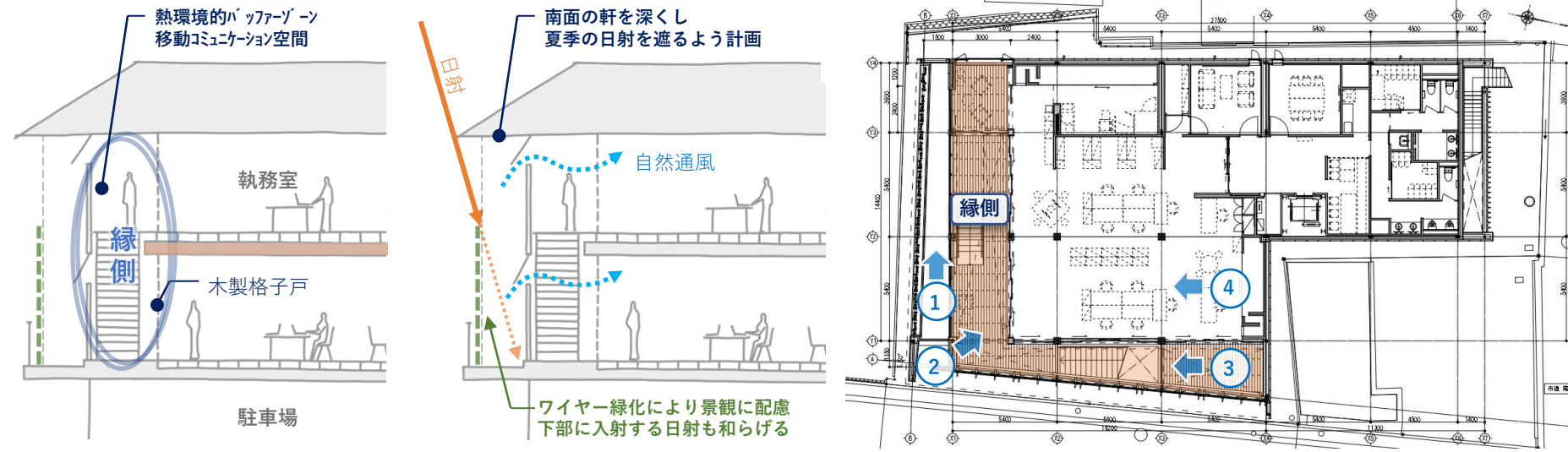
金沢市の名所をつなぐ観光道路である百万石通りに面する建物の建替えプロジェクト。
立地は主計町・ひがし茶屋街に近く観光客の往来も多いことから建物高さの抑制、低明度・低彩度の外装材、熱処理木フィンや楡引左官壁、一文字瓦や石畳など素材を感じられる仕上げを採用しまちなみへの調和に配慮した。
日本家屋が多く残るまちなみの文脈を受け継ぎ、外部への開放性を確保しながらプライバシーに配慮し、通風・日射の採り入れや制御を行う、環境的緩衝帯となる縁側を設けた。
正面道路側は、熱処理木のフィンとガラス越しの縁側で構成して、CLTや集成材、木製格子戸を複層的に見せることで、木の存在感とその質感の繊細さによって空間に奥行きを与えている。また木を介した自然光による陰影や照明の演出により、時間とともに表情が変わるファサードデザインを構築した。
夜間は周辺に合わせて段階的に明るさを調整する照明計画とし、行燈をイメージしたやわらかい灯りが周囲を照らし、趣のある夜のまちなみ形成に寄与している。

This is a reconstruction project for a building along Hyakumangoku-dori, a tourist street connecting Kanazawa's famous landmarks. Since the site is located close to Kazue-machi Chaya District, which is frequented by tourists, the height of the building was kept low, and materials that would harmonize with the townscape were used, such as exterior materials in subdued colors, heat-treated wood fins, combed plaster walls, Ichimonji tiles, and stone pavement. In the historical context of the town where many Japanese-style houses still remain, the building was designed to control ventilation and daylighting taking into account both openness to the outside and privacy, and a space called "engawa," a Japanese veranda, was created to serve as an environmental buffer. On the front street side, the CLT, laminated wood, and wooden lattice doors in the engawa can be seen through the facade composed of wood fins and glass walls, in a multi-layered manner, with the presence of wood and the subtlety of its texture effectively giving depth to the space. The facade is designed to change its expressions by time of day in the natural light as well as with the lighting scheme. At night, the brightness of the lighting is adjusted in steps according to the environment, and soft lights reminiscent of andon (Japanese lantern) illuminate the surrounding area, contributing to the creation of an atmospheric nighttime townscape.



外部環境とのバッファゾーン「縁側」を中心とした空間構成

2、3階に設けた執務室の東・南側の外周部に、外部からの日射や自然風、道路からの視線を制御するためのバッファゾーンとして日本家屋の空間構成に倣った「縁側」を設けた。
縁側は吹抜空間とし、執務者の移動や交流の場として上下階をつなぐ役割を担い、執務室との間に設けた木製格子戸を、執務者が自由に開閉できるように設けることで開放性を調整し、自然風の制御や景色の変化といった、働く環境の転換が行える昔ながらの縁側空間を計画した。



周辺環境に配慮した照明計画

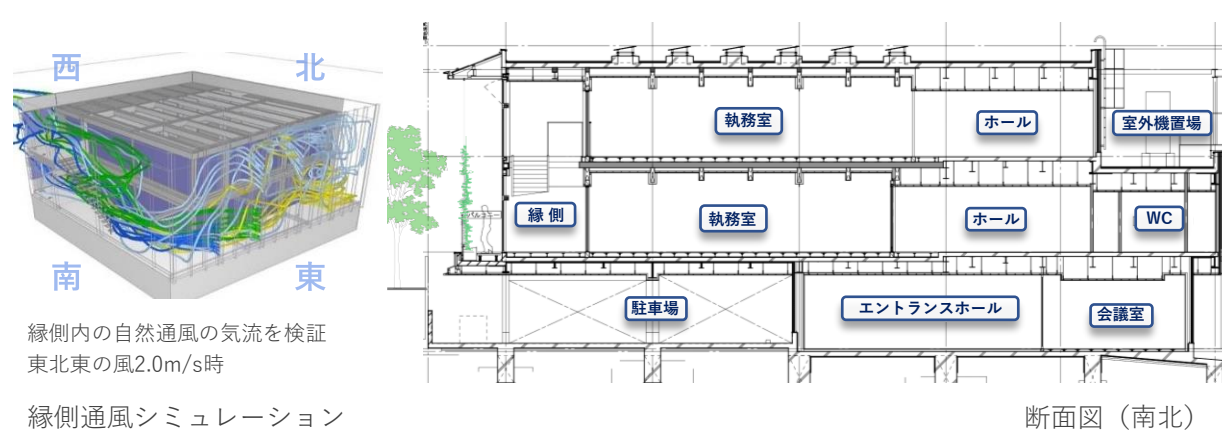
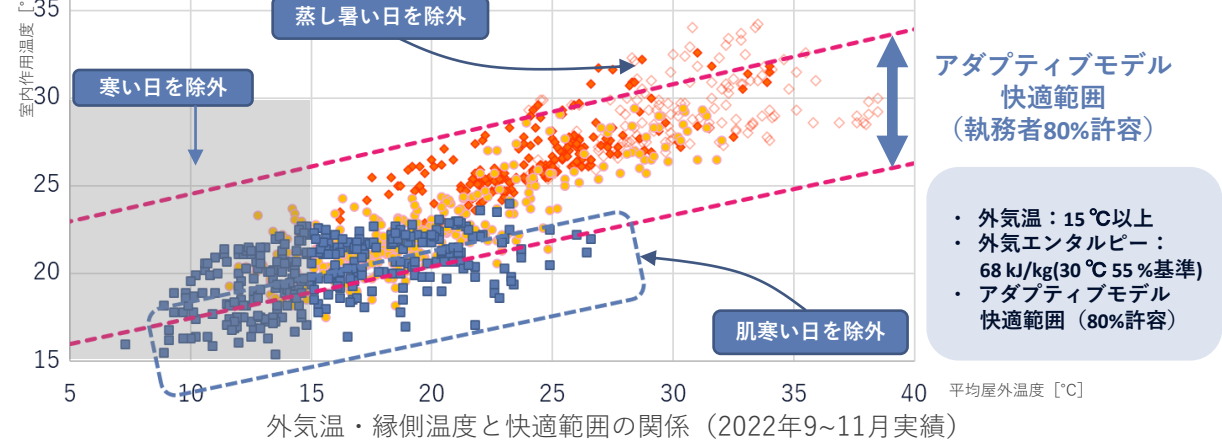
業務時間中の建物内部から外部に漏れる照明光について、敷地周辺は街灯が少なく暗くなることから、周囲の建物と比べて特出して明るく感じないよう、照明の色温度を低めに設定した。周囲が暗くなると、照明により内部の格子戸や木構造体が浮かび上がり、日中とは異なる表情となる。設定した時間になると、ロールスクリーンが自動で降下し、生地によって内部の光が拡散されることでやわらかく光り、周囲への漏れ光に配慮した照明計画とした。



自然エネルギーを有効に取り入れるためのシステムを構築

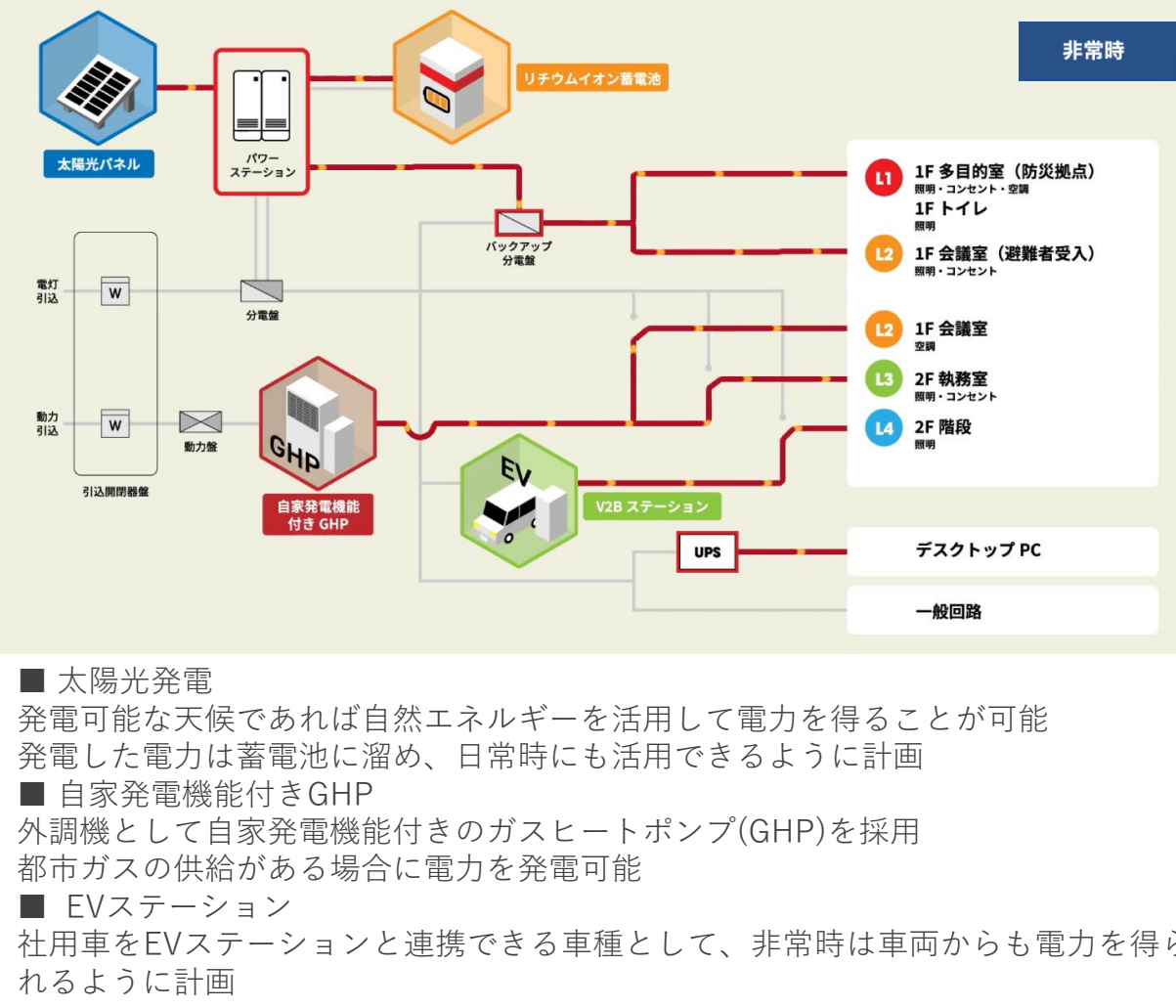


リモビスを介して外気温の測定を行い、自然換気が可能である場合に、執務者に対して通知を行うシステム（アダプティブモデルによる自然換気判断）を構築。システムでは換気タイミングを表示するまでに留め、通知を確認した執務者が自主的に縁側の換気窓開閉を行う仕組みとして、執務者の自然エネルギーの活用に対する意識を高めることを意図している。
縁側内の自然風の気流を検証東北東の風2.0m/s時



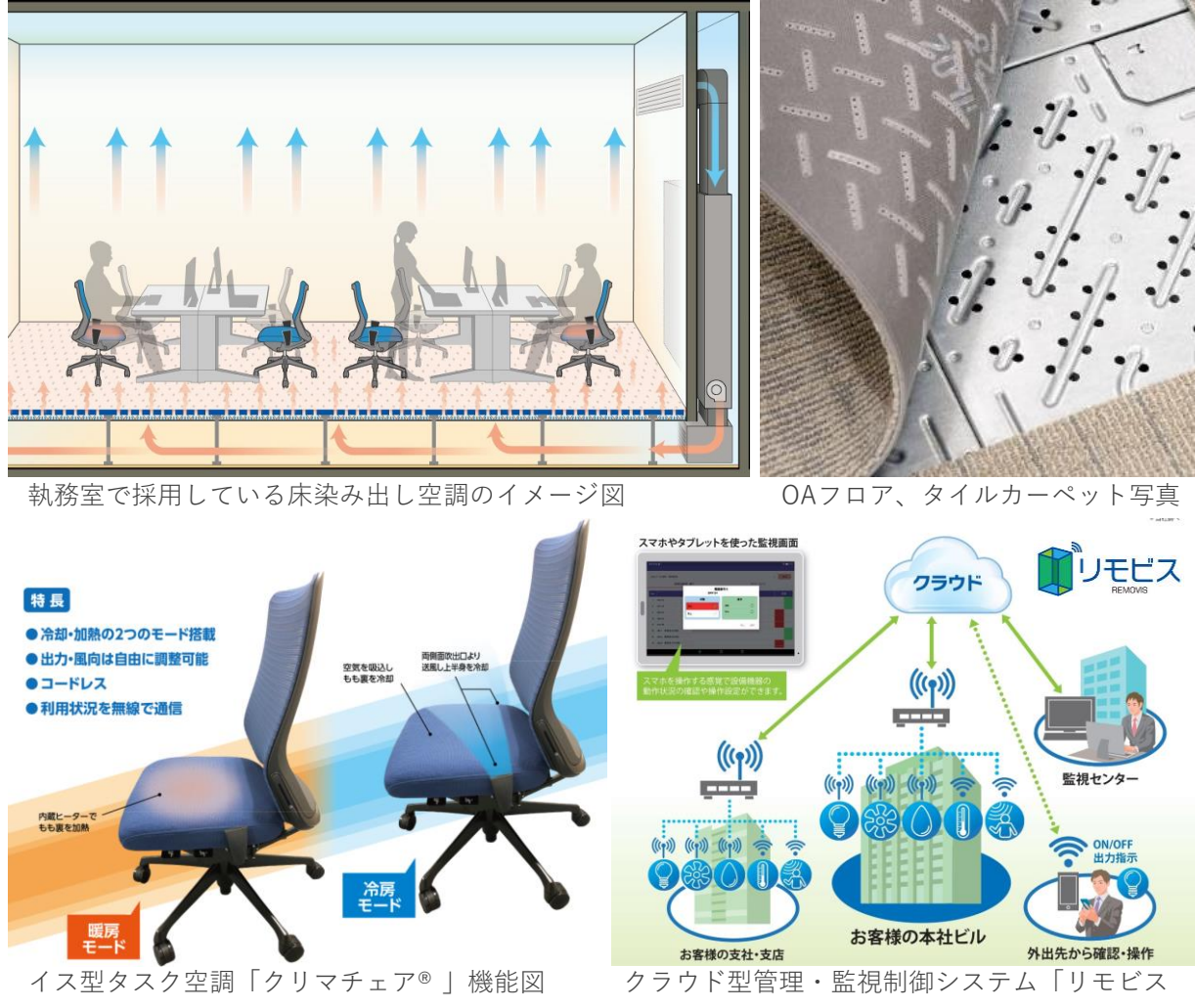
レジリエンス強化

災害によって電源が断たれた際に、一時的な避難場所とできる設備と情報収集やその後の復旧の拠点として支店機能が継続できるように、エリアを絞って照明やコンセント、空調を生かす計画でレジリエンスを強化した。
複数の電源確保手段を備えることで、さまざまなリスクに対応できる計画とした。



心地よく働けるオフィス環境を構築する設備計画

換気効率が高く、居住域を効率よく空調できる床染み出し空調システムを採用しダイダン独自のイ型タスク空調「クリマチェア®」を組合せ、クラウド型自動制御システム「リモビス®」で稼働状況を連携させることで、室全体の空調を調整するシステムを導入し、誰もが心地よく働けるオフィス環境を構築した。



執務者の快適性を高めるためのバイオフィリックデザインの導入

執務室にはダイダンと芝浦工業大学との共同研究結果に基づいた、バイオフィリックデザインを導入。本計画の着工前に実験室にて被験者実験を行った結果、「木質内装」「緑視率 5%以上」の内装条件において、執務者の疲労感が最も軽減される実験結果を基にバイオフィリックデザインとしての設定条件を設計指針とし、各座席の着席時の執務者からの緑視率が5%程度確保できるよう植栽の配置計画を策定し、執務者にとって快適な執務空間を目指した。



評価表

評価項目	評価内容	評価結果	
		達成率	評価
A. 感性軸 (造形) Form	01 親和性	○	2
	02 親和性	○	2
	03 親和性	○	2
	04 親和性	○	2
	05 完成度	○	2
B. 機能軸 (技術) Technology	06 機能性	○	2
	07 操作性	○	2
	08 操作性	○	2
	09 安全性	○	2
	10 操作性	○	2
C. 社会軸 (環境) Environment	11 親和性	○	1
	12 親和性	○	2
	13 親和性	○	2
	14 操作性	○	1
	15 操作性	○	2
D. 経済軸 (LCC) Life Cycle Cost	16 LCC	○	1
	17 LCC	○	2
	18 LCC	○	2
	19 LCC	○	2
	20 LCC	○	2

